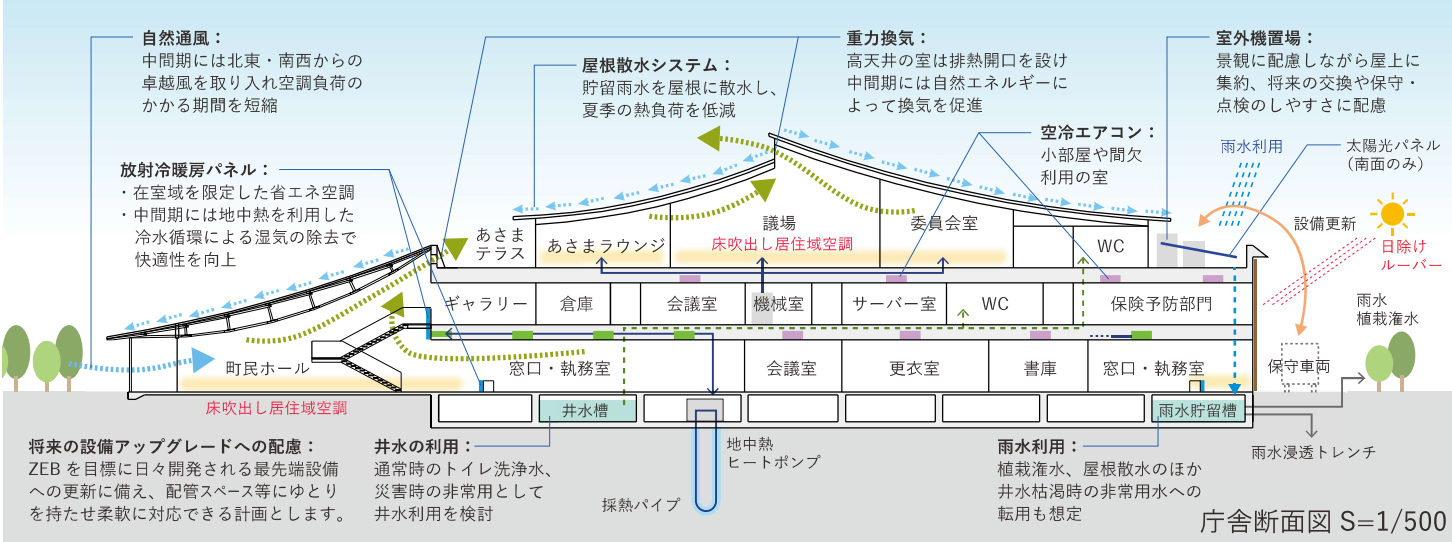


<テーマ1「庁舎建設及び周辺整備基本方針」について>『軽井沢の気候と風土の特性を最大限に活かした設備計画』

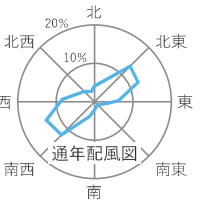


■恵まれた自然環境を活用する、持続性の高い設備方式

- ・出来るだけ機械に頼らずに、地域の自然や気候の恩恵を最大に活かすパッシブデザイン型設備計画とします。
- ・空調熱源に再生可能エネルギーの「地熱」を活用します。環境汚染の心配が少なく、従来システムに比べ 50%程の節電効果が得られ、CO2 排出量も削減できます。また、常時／間欠利用、高天井など各室の特性に適した空調方式を割り当てることで、効率・経済性が高くかつ快適な居住性が得られるよう設備の最適化を図ります。
- ・屋根に降った雨水は浸透処理の前に地下躯体ピットに一時貯留し、屋根散水や植栽灌水として有効活用します。

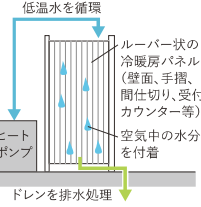
■卓越風の取り入れと重力換気による空調期間の短縮

中間期は北東・南西からの卓越風を建物に取り入れ、温度差による重力換気で空気循環を促進します。空調が必要な期間を短縮し、省エネとランニングコストの低減に貢献します。



■軽井沢特有の気候条件「湿気」への対策

自然通風を行う中間期には湿気対策として低温の水を室内の放射冷暖房パネル（ルーバー状ラジエーター）に循環。空気中の水分を結露水として除去し、執務環境を快適に保ちます。



■災害発生時を想定した万全・安心の防災対策

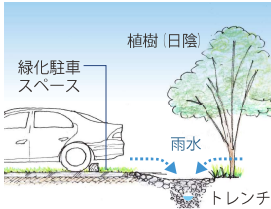
- ・非常用水として井水の導入を検討します。通常時にはトイレ洗浄に用いて水質を適切な状態に維持します。
- ・地震時の井水枯渇も想定し、灌水用に貯留する雨水を給水車配備までの非常用水に転用できる計画とします。
- ・非常用発電設備の他に、電力復旧までの補助電源として屋上に太陽光パネルを設置します。

■設備更新・メンテナンスしやすい室外機置場

室外機置場は原則地上に設置し樹木で修景する計画とします。庁舎では一部屋上設置とし、保守車両がクレーンで容易に設備の更新・保守が可能な配置とします。

■グリーンインフラの創意工夫

雨水処理は、敷地内に雨庭（レインガーデン）と緑陰駐車場に付随する浸透トレンチを分散配置し、降った場所の近くで地表に浸透させる自然の環境状態に近い方式とします。



緑陰駐車場と浸透トレンチ

■誰もが安心できる、ユニバーサルデザインへの配慮

年齢・性別・国籍に関わらず誰でも利用する施設のため、ローカウンター窓口、ゆとりある待合スペースや通路、エレベーターや授乳室の設置、段差箇所の解消など誰もが安心安全に利用できるデザインに配慮します。

『安心・安全を支える、頼れる防災拠点としての庁舎』

■耐震性・堅牢性の高い合理的な庁舎の構造

- ・災害対策本部が設置され防災拠点となる庁舎では特に耐震性・火山噴石等に対する堅牢性を重視し、RC 構造を主体とした耐火建築物の中に主要用途をまとめます。
- ・正六角形の平面にバランスよく耐震壁を配置。外周部の執務空間では長スパンの鉄骨梁によって柱数を減らしフレキシビリティが高いワークスペースを確保します。

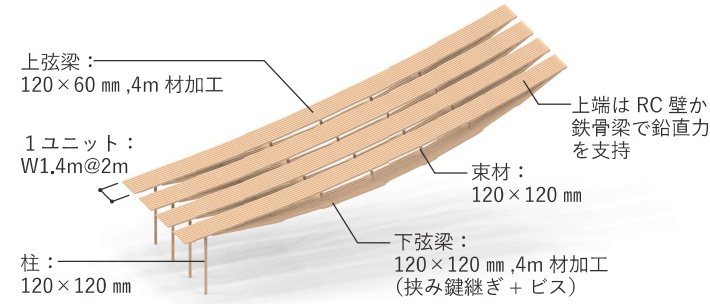
『地場木材を最大限に活用した、持続性の高い木質構造』

- ・持続可能な開発目標 SDGs に掲げられる再生可能資源である「地場産の木材」を建築に取り入れます。

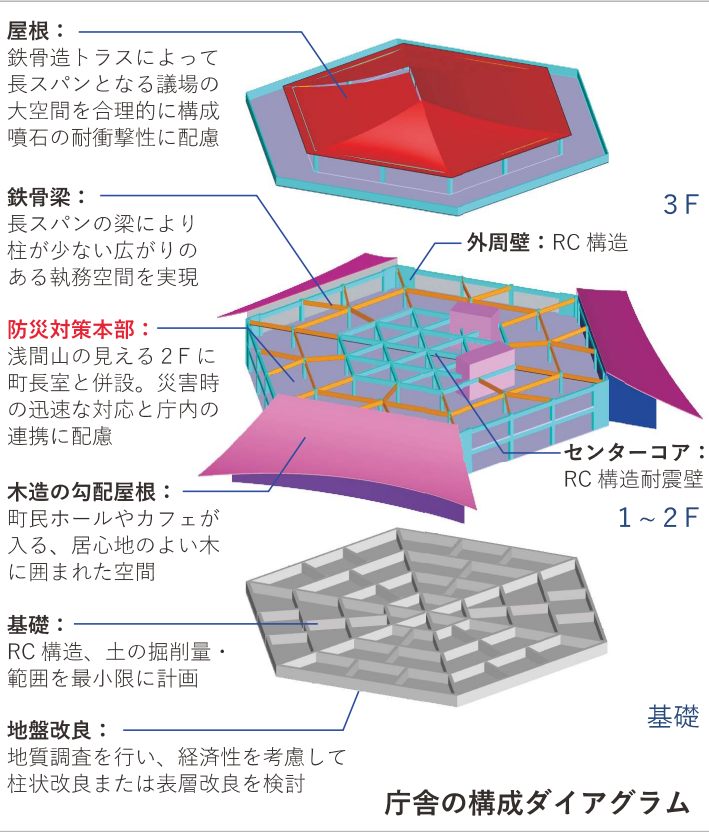
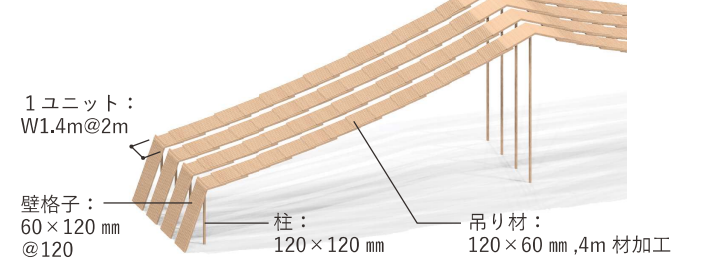
■柔らかな木質空間を生む「張弦梁」と「吊り構造」

- ・ヴォリュームを抑えた優しいスケール感の建築群によって、繊細で抑揚のあるリズムカルで軽快な空間、景観を創出します。
- ・木材は地場産のヒノキ無垢材がカラマツ集成材を想定。特殊規格材ではなく長さ 4 m の流通規格材を用い、接合はシンプルな仕口と長ビスによる架構とすることで特殊金物を必要としない経済性に優れた工法とします。

1. 張弦梁構造ユニット（庁舎、くつかけホール）

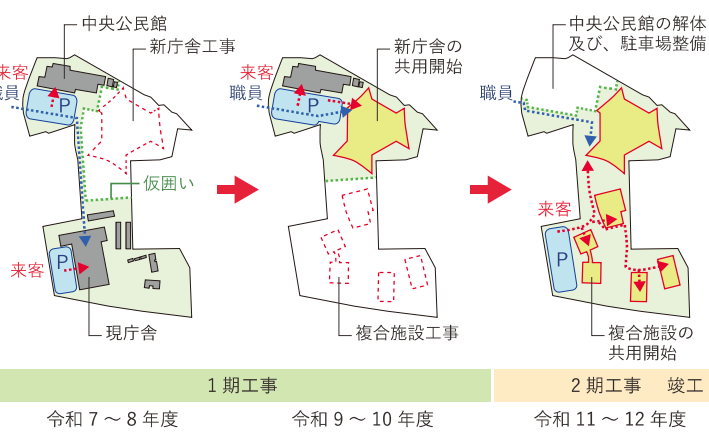


2. 吊り構造ユニット（複合施設）



『安全性・機能性・経済性に配慮した建て替え計画』

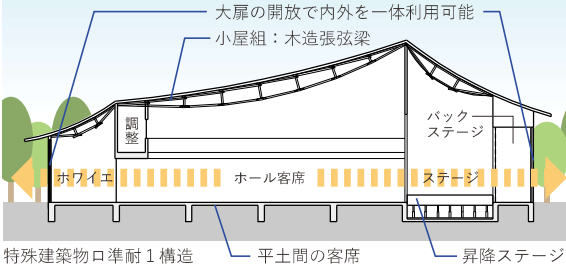
同じ敷地内で順次建て替えが進む計画のため、特に利用者の安全と既存施設の機能維持に配慮します。新庁舎を敷地北側に配置とし、常に来客用駐車場を確保しながら工事を進めます。庁舎と中央公民館の連携に配慮し、職員駐車場から庁舎への動線を常時確保します。仮設庁舎の建設を必要とせず経済的に機能移転が可能です。



『抑揚ある空間を形づくる繊細な木の屋根群が多様性に富んだ活動を受け入れる複合施設／住民主体の運営を視野に入れた、分棟低層型の建築群』

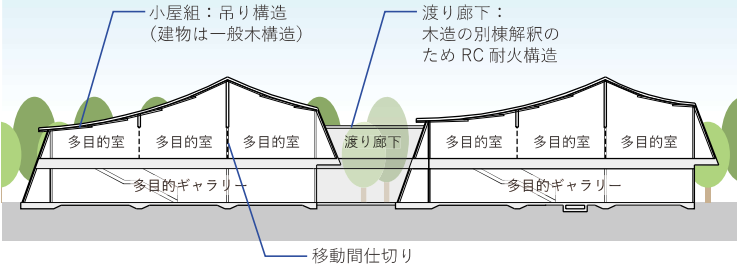
- ・繊細な木の張弦梁構造と吊り構造の屋根がリズムカルな空間の抑揚を生み、利用者の多様性に富んだ活動や交流を受け入れる大らかな場所をつくります。
- ・低層分棟式で個々の建物規模を抑えることにより、住民自治による住民主体の運営や管理が無理なく行える計画とします。それぞれの用途や面積は今後の協議の中で柔軟に対応可能です。

複合施設 A：内外空間を一体利用できる「くつかけホール」



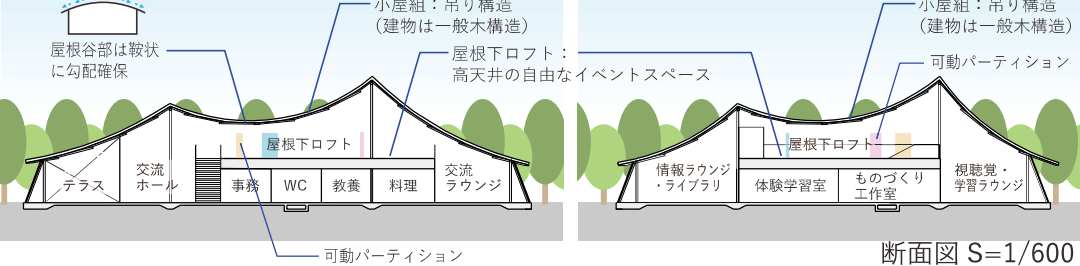
多用途利用を想定した平土間形式。大扉を開放して内外を一体利用でき、災害時は避難所としても機能。

複合施設 B：大小空間の自由な組合せで可能性が広がる「多目的館」



移動間仕切りで多目的室の大きさを柔軟に変更可能。多目的室と多目的ギャラリーを一体利用し、全館的に美術展・展覧会等にも対応。

複合施設 C・D：多様なアクティビティ受け入れる、おおらかな空間「大屋根の住民交流館」



利用者の活動や交流を広く受け入れる公民館機能の他、くつかけテラス分館として情報ラウンジ・ライブラリを想定。「屋根下ロフト」は可動パーティションによって自由に場所がつけられる高天井のスペース。